

せとうちDMOの取組状況について

1 要旨・目的

一般社団法人せとうち観光推進機構の「令和8年度定時社員総会」において、令和7年度のせとうちDMOの取組状況等について報告が行われた。

2 令和7年度事業の概要

(1) 主な誘客戦略

ターゲット市場（英・仏・独・米・豪）における高付加価値旅行者の旅行需要を喚起するため、現地メディアへの営業活動により、各市場におけるメディア媒体への掲載を促し、せとうちエリアの認知拡大を図った。

【欧米豪市場における記事掲載本数：実績 236 本（目標 150 本）】

(2) 主な地域の魅力づくり戦略

○ 持続可能な観光に世界的な関心が高まる中、地域の伝統文化の承継や地元産品等のサステナブルなコンテンツの造成・磨き上げを行うとともに、せとうちエリアへの送客意欲が高い旅行会社等を招請した商談会において、造成したコンテンツを旅行商品として販売し、せとうちエリアへの誘客拡大を図った。

【造成数：実績 14 商品（目標 10 商品）、旅行商品売上：実績 4.58 百万円（目標 4 百万円）】

○ せとうちエリア全体を高付加価値な観光地としていくための指針となるマスタープラン（令和6年策定）に基づき、以下のような取組を実施した。

・高付加価値旅行者に訴求できるような観光素材の確定

有識者による現地視察を実施し、検証・選定を経て、英語版の概要（コンテンツサマリー）を作成した。

【素材内容の概要作成：実績 28 件】

・スーパーヨット誘致活動

高付加価値旅行者が所有するスーパーヨットの寄港地としてせとうちが選ばれ、周遊されるエリアとなるため、海外ヨットショーへ出展し、プロモーションとコネクション形成を図るとともに、業界関係者等とのビジネスモデルの検討や勉強会の実施を通じた受入環境整備等を行った。

・宿泊施設確保計画の作成

滞在時間の拡大や観光消費額の拡大につながるせとうちエリアにおける宿泊施設について、高級ホテルを中心とした宿泊需要動向の分析をもとに宿泊施設確保計画を作成した。

3 その他

世界に誇る観光地形成に向け、観光庁が支援する、地域全体の活性化等の取組を高水準で満たす「世界的なDMO」の候補となる「先駆的DMO」に、一般社団法人せとうち観光推進機構が認定された。

観光庁の支援を受けながら、広域観光の司令塔となるDMOとして、観光地マネジメントの課題解決に向けた知見・ノウハウの蓄積を行い、他のDMO活動への横展開を目指す。

《新中期5か年計画「せとうち観光成長戦略2026―2030」》

- 従来のブランドコンセプト「AUTHENTIC JAPAN:SETOUCHI～ありのままの日本の魅力はここにある：せとうち」を引き継ぎ、2030年に向けて、せとうち7県のインバウンド旅行消費額7,500億円、経済波及効果9,661億円を目指す。
- 富裕層向けと誤解を生みやすい高付加価値観光を、「高品質で持続可能な観光」と再定義し、既存ターゲットである欧米豪の知的旅行者・高付加価値旅行者を中心としつつも、「世界中の高付加価値旅行者層」や「国内の文化志向層」への波及を目指す。
- 旅行消費額の増加、観光客の満足度向上、住民の満足度向上を3つの基本方針として、「誘客戦略」と「地域の魅力づくり戦略」の2本柱で施策を展開する。